

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょ

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠里の郷
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1
記入者名 (管理者)	尾本とも代
記入日	平成 21 年 1 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>悠里の郷独自の「のんびり、共に、笑顔で楽しく」という基本理念を掲げ、当ホーム独自の介護理念10カ条も作りあげている。</p>	<p>理念をホーム内に掲示している。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>基本理念・介護理念を明記した用紙を全スタッフに配布している。また、基本理念をいつでも誰でも見られるように玄関に掲示し、日々の介護に取り組んでいる。</p>	<p>理念に添ったケアに努めている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時にはご家族様へ当ホームの理念を説明し、ご理解して頂いたうえで入居して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>地域の方々へは一部の方々を除いて基本理念・介護理念等は周知されていない為、今後地域の方々との交流に力を入れて行きたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>お互いの行事等を通して、地域の皆様(老人クラブ、児童館、小学校等)にも参加して頂いたり、招待されたり、交流を図り、日常的な付き合いが出来るよう努めている</p>	<p>日々の散歩の時の挨拶や夏祭り・10月の芋煮会の際等に交流を行っている</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>入居者様を含めて、お互いの行事参加を通して地域の皆様との交流を図れる様に努めている</p>	<p>地域の行事参加の機会を増やしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域のゲートボールクラブの方々との関わりにて互いの交流の場を設けられるよう取り組んでいる。	○	情報等を公開したり、事業所として、何が出来るか、話あいを持ち地域の役に立てるよう少しで貢献していきたい
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度、自己評価及び外部評価を行っている。全スタッフが自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し取り組んでいる。評価後は回覧し、改善に努めている。	○	評価結果をホーム内に掲示し誰でも見られるようにする。評価後は改善が必要な項目をスタッフで話し合い、具体的に取り組める様に進めている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回の割合で運営推進会議を実施し、GHの取り組み及び状況報告を行っている。又、行事(芋煮会・会食等)にも参加して頂きホーム内の生活の様子を推進委員の皆様に見学して頂く機会を設けている。会議の内容は回覧して、サービスの向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町と共にサービスの質の向上への取り組みを心掛けているが、運営推進会議以外での情報交換する機会は少ない。	○	町と情報交換する機会を多く持ちサービスの質の向上へと繋げていけるように連携を図っていく。また町の担当者・関係者の方々にもホーム内の見学等を働きかけていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在、成年後見制度を利用している入居者様はおりませんが、研修等で権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会があります。	○	ホーム内での勉強会や研修会の機会を設け、必要な入居者様が入居した場合速やかに支援できるよう、制度の理解を深め、体制作りをしていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームの介護理念にも虐待防止の項目を取り上げると同時に、全スタッフがそれを理解した上で日々の介護に取り組んでいる	○	ホーム内での勉強会や研修会の機会を設け、研修会等への参加を呼びかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		意見箱の設置を行っている
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		意見箱の設置をしている。 ご家族様の希望・要望を受け入れられるよう取り組んでいる
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	職員一人一人の意見等を反映させる為に、話し合いの機会を多く作っていきたい。 管理者・ユニットリーダーは意見を取りまとめ、運営者へ相談していく
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じた研修参加を定期的に行っている 法人内の研修や勉強会の機会は少ないが職員に声がけし行っている。</p>	○	<p>研修会や勉強会の計画を具体的に立案し、全スタッフが研修参加できるように取り組んでいる</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内での交流やネットワーク作りは図れているが、他施設との交流を含めた勉強会等への取り組みはなされていない。</p>	○	<p>GH協会主催の勉強会や研修への参加を取り入れていくと同時に、相互訪問等の交流も行っていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内では互助会を設けて、定期的に親睦会や忘年会等を実施し、職員の交流を深めると共にストレス解消へと繋がっている。</p>		<p>GH2ユニット合同の新年会や年数回の食事会を行っている</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員個々の勤務実績、年齢、性別の状況等を理解した上でGHスタッフの配置を行っており、仕事への意欲向上に繋がるように努めている</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者様の不安なこと等を聴く機会を作っている。それを受け入れ、個別対応することにより、信頼関係に繋がるよう心掛けている</p>		<p>入居前に個別に傾聴し心配事など具体的にお聞きしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族様からの相談や心配事などを入居時点でお伺いすると同時に随時電話連絡や面会時等に話をする機会を設け、ご家族様の安心と信頼関係に繋がるよう心掛けている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、状況、支援すべきことを見極め対応している。身体的な低下等で、グループホームでの生活が困難であると判断した場合は他のサービス利用も検討している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった際、事前に見学、調査等で入居者様、ご家族様より情報収集、相談を行っている。納得の上で入居して頂き、状況に応じて面会の依頼、外出・外泊等を利用しながら馴染んで頂いている		入居者様がまず馴染める環境作りに努めご家族に家具の持ち込みなどお願いし、ホームの生活が居心地よく過ごせるよう支援している
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリ、行事等を共にし、入居者様と一緒に過ごし支え合っている。日々の生活において郷土の歌や昔からの行事等教えて頂いたり、また貴重なお話を聞かせて頂くことがある		年に一度温泉旅行を行っている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを通して、入居者様の目標を共有している。必要に応じて、電話連絡や面会時等に十分な情報交換を行い、接する時間を設け、信頼関係が築けるよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族様の関係を理解し、支援している。面会・外出・外泊を通し、入居者様とご家族様のよい関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切にしてきたことをスタッフも大切に思い支援している。出来るかぎり一人一人の方が満足出来るよう支援していきたい。		なじみの場所へのドライブや、買い物に出かけている。またなじみの美容室への送迎を行っている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の関係を把握し、食席、生活リハビリ、外出を行うと同時に良好な関係が築けるよう支援している。中には一人の時間が好きな入居者様もいるため、配慮している		利用者同士のコミュニケーションを大切に支援している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的に関わりを必要とする入居者様やご家族様には、契約が終了しても、近況報告、相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を理解し、個別に支援できるように努めている。認知度によって困難な場合は、ご家族様より随時、情報を得て本人本位で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時には、生活歴や生活環境、生活の様子等をお伺いしている。入居前の資料の回覧を行いスタッフ間で共有することによりこれまでの生活歴を把握し理解した上で、入居後の生活に繋がるよう支援している。		ケアマネジャーやご家族の方からよくお話をお聞きし本人の希望等をお聞きし生活支援している。
35	ひ 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりの生活状況を把握し、個別に応じた環境で生活できるように支援している。		総合的に把握する為に生活状況票に記録し、入浴チェック表なども活用している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	検討用紙を作成し、全スタッフの意見を反映させ介護計画を作成している。入居者様の意向、ご家族様の意向を取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がある場合は迅速に対応しており、必要があればご家族様に参加して頂きカンファレンスを実施し、介護計画を変更している。		毎月評価モニタリングの話し合いを行い見直しを行っている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子を記録し、課題や気づきの点があった場合は、申し送りや解決にむけての話し合いを行っている。スタッフ申し送りノートなどを活用し情報の共有を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やいご家族様の状況に応じて、柔軟に支援するよう心掛けている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月行事にはボランティアを取り入れた取り組みや一緒に食事を食べる時間をつくり、交流を図ると同時に楽しめる環境を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の必要性に応じて、通院支援などの利用を支援している。		介護タクシーなど利用している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などを通じて、地域包括支援センターと協力している。なにかある時はお互い相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様とご家族様のご希望の病院、もしくは入居前より受診している病院を自由に選択して頂いている。通院の際にはバイタル表を持参し、必要であれば、スタッフからかかりつけ医に状態報告をしている。		急な発熱、状態の悪化でご家族様に連絡してもすぐ通院出来ない時には、ご家族様の了解のもと通院介助を行うこともある



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月一回、協力病院(精神科医師)の定期回診をホームで実施している。また、入居者様の状態に応じてその都度相談し認知症専門医の診察を受けられるよう支援している		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者様に日中、体調不良が診られた時や身体的に不安がある時は、同法人内の看護師に連絡状況報告し、時にはホームに来て診て貰い対応している。	○	看護職員の配属を希望していきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報交換、相談に努めている。早期に退院できるよう連絡を密にし、協働している。		早期に退院して来る為、病院関係者や家族様に身体状況(食事形態・入浴等)詳しい情報を密にお聞きし対応している
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体状態の変化やホームでの生活が困難を生じる場合には、事前にご家族様との話し合いの場を設け、相談していくように対応している	○	看護師がいない為看取りは行っていないが、重度化、終末期でも対応できるよう知識・技術を取得していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	身体面では自立した入居者様が多く、重度化、終末期に向けた医療面、環境面での検討や取り組みが十分とは言えない。隣接の法人内にはいるが自ホーム内に看護師がいない為不安がある。	○	今後に向けた終末期の取り組みを検討しながら、医療面等チームとしての支援方法について話し合いを行ってきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者との情報交換、その他の支援を行い、スムーズな住み替えを支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行い、個人情報の厳守とプライバシーに配慮し支援している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	同一に行うのでは無く、個別に説明し自己決定または自己選択できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースを守り、その人らしさを優先に支援出来るようにと努めているが、時間帯・状況によっては、スタッフのペースになることがある。	○ スタッフが気持ちにゆとりを持ち、一人ひとりのペースを守れる様日々努めていく
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者様の個性に応じたかみ型や身のだしなみの、支援を行っている。昔から通っている美容室に行く方もいる為希望に応じて送迎を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事、誕生会等では入居者様が食べたいものを取り入れ、食事が楽しめるよう工夫している。スタッフと一緒に料理(皮むき・野菜きり・味付け・味見・盛り付け)をする方もいる。ご飯もお粥の方・おにぎりの方・軟飯等入居者様にあわせ工夫している	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物のは、入居者様の好みのものを提供している。タバコが好きな入居者様には所定場所で自由に吸って頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう努め、把握した上でトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	居着様の希望、タイミングに合わせて入浴を支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	テレビ鑑賞や談話の時間、お昼寝、就寝の時間については、入居者様一人ひとりのリズムに合わせている。また、生活のリズムが把握できるよう、日々努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の生活歴等を把握し、役割、楽しみにつながるよう日々努めている。ドライブ・買い物・散歩等も取り入れている。職員の工夫で体操や話題提供を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との相談にて、数名以外の方は職員が管理している。好みの物、日用品は購入出来る状態である。お出かけた時はおやつ代など小銭の財布を持って行く事がある		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、散歩等を希望に応じて行っている。ご家族様と通院したり、外出、外泊も自由に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り温泉や外食する機会を設け支援している。実家の近くまでドライブしたり、神社参り、海や飛行機を見に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により、ご家族様に電話をしている。また、手紙のやり取りも支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様等がいつでも気軽に面会出来るようになっている。また居室、談話室等も自由に使えるようになっており、職員は挨拶・お茶等のサービスを心掛けている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全てのスタッフが身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアを日々実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は施錠していない。自由に入出入りできるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に入居者様のプライバシーに配慮しながら、所在の確認、様子の把握、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせ、危険を予防する取り組みを行っている。洗剤や消毒液は所定箇所へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃からスタッフ間で話し合い、入居者様に応じた事故防止に努めている。ヒヤリハットの活用で未然の防止に努めており、緊急時には連絡網にて、夜間でも連絡できる体制がある。また、職員全員が普通救命講習(消防署にて)に取り組んでいる		全職員が普通救命講習(消防署にて)に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が普通救命講習にて定期的に訓練を行っているが応急手当等、急変時や事故発生時に万全に対応できるか不安がある。		今年一月より消防署での普通救命講習を受けているがその他勉強会等の研修に参加していきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、総合防災訓練を実施し、入居者様の安全を第一に考え、避難できるよう取り組んでいる	○	町内会との連携、地域の方々より協力が得られるように働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	グループホーム入居時には個室である事についてのリスクを必ずお話し、ご理解を頂くと同時に、生活の中で危険と感ずる場合には、随時ご家族様への相談と報告を行い対応している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・食事摂取状況・排泄状況を記録し情報を共有し、日々の身体の変化や健康状態の把握に努めている。変化が合った場合は、同法人の看護師に連絡し相談または、来居し診て貰い、ご家族様への連絡、病院受診を支援している		ホーム独自の看護師がいない為同法人の看護師をお願いしてあるが不安である。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療ファイルを作成し一人ひとりの情報を常に職員が把握し確認出来るようにしている。症状の変化や服薬の変更は記録等にて申し送り確認している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表にて排便の管理を行っている。乳製品・繊維物(野菜・果物)食品・リハビリ・体操等心掛けている。また、個別に{水分補給・薬(下剤)}	○	薬に頼る事が多い為、身体を動かす等工夫した支援に努める。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	年に数回歯科衛生士のもと口腔衛生に努めている。一人ひとり口腔状態に応じて支援している。毎食後の口腔ケア(声掛け・うがい・歯磨き・義歯洗浄等)に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事バランスを考え献立を作り、入居者様に合わせた食事量、食材を工夫し、食事・水分提供を行っている。</p>	<p>当法人の栄養士と連携を図っている</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>法人内の感染症対策マニュアルをもとに実施している。当番制でトイレ・居室内・手すり等を毎日消毒している。職員・入居者様共に手洗い・うがい等の励行を徹底している。調理器具の消毒も行っている</p>	<p>県の研修会や、法人内の研修会に参加し、予防に努めている</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具の消毒を毎日実施し、衛生管理をしている。定期的に新鮮な食材を発注し、冷蔵庫・冷凍庫に分け保管している。</p>	<p>刺身や貝類は注文しないようにしている</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>庭には、プランターや畑があり野菜や草花を植えている。玄関には、季節の植物、装飾がなされ、家庭的な雰囲気作りに努めている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう工夫している。利用者様に不快な音や光が無いよう、テレビの音やカーテンなど配慮し対応している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースでは自由に過ごせる居場所が入居者様毎に確保されている。お気に入りの場所にて、お茶を飲んだり談話できるよう支援を行っている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に入居者様、ご家族様と相談し、入居者様一人ひとり馴染みのある物等を自由に持参頂き居心地良く過ごせるよう工夫している。ご家族様の宿泊も可能である		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気に努め入居者様毎に衣類の調整と冬場は各居室内に加湿器を設置し、温度湿度管理を行っている。また、毎日の温度湿度を記録している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子、ソファの配置は、安全に配慮し工夫している。環境に配慮し、排泄時・入浴時自立を促す支援を心掛けている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、居室には表札を設置し場所が分かるよう工夫している。声掛けと見守りを心がけ、自立を促す支援に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には、ウッドデッキ、テーブル、椅子を配置しており、季節毎にお花見、芋煮会等を行っている。年2回ボランティアの方々と野菜や花植えを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当ホームでは看護師はいないが、緊急時については同一法人（敷地内）の看護師の協力体制ができています。また、月一回の専門医（精神科）のDr回診、同法人の歯科衛生士の指導があり、利用者様の健康管理は万全である。
- ・毎月モニタリング評価会議や毎日の評価記録を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを頻繁に行い生活援助計画へと繋げている。
- ・当ホームの内部は床暖房設備や居室、トイレの十分な広さが確保されており、外部は庭が広く、畑もあり緑が多い等住みやすい住環境が整っている。
- ・当ホームで自由に使用できるホーム専用車が確保されている。
- ・同法人が近隣にあるため、いつでも協力体制がとれるような状態にある
- ・仙南（亘理町）は温暖な気候と水・空気・食べ物がとても美味しく大変住みやすい町に当ホームがある。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム悠里の郷
(ユニット名)	はぎ
所在地 (県・市町村名)	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1
記入者名 (管理者)	尾本とも代
記入日	平成 21 年 1 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	悠里の郷独自の「のんびり、共に、笑顔で楽しく」と言う基本理念を掲げ、当ホーム独自の介護理念10カ条も作りあげている	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念・介護理念を記入した用紙を全スタッフに配布している また、基本理念をいつでも誰でも見れるように玄関へ提示し、日々の介護へと取り組んでいる	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時にはご家族様へ当ホームの理念を説明しご理解して頂いた上で入居して頂いている また、推進会議等を通じて地域の皆様へのホームの説明等も実施し、ご理解して頂けるようお話する機会も設けている	○ 地域の方々にはまだまだ周知されていないため、今後地域との交流に力をいれていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	お互いの行事等を通して、地域の皆様(老人クラブ、児童館)にも参加して頂きながら、地域の皆様との交流を図り、日常的な付き合いができるように努めている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者様を含めてお互いの行事へ参加する機会を作り、互いの行事参加を通して地域の皆さんとの交流を図れるように努めている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会の方々との交流がある	○	事業所の力を活かし、地域に役立つことがないか話し合いの場を作っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度、自己評価及び外部評価を行っている 全スタッフが自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し取り組んでいる	○	評価後は改善点が必要な項目をスタッフで話し合いの場を持ち、具体的に取るように勧めていく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月の割合で推進会議を実施し、GHの取り組み及び状況報告を定期的に行っている また、行事(芋煮会・会食等)へも参加して頂き、ホーム内の生活の様子を推進委員の皆様にも見学して頂く機会も設けている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と共にサービスの質の向上への取り組みを心掛けているが、情報交換する機会が少ないのが現状である	○	市町村と情報交換する機会を多く持ち、サービスの質の向上へと繋げていけるように連携を図っていく また、市町村担当者・関係者の方々にもホーム内の見学等を働きかけていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在、成年後見制度を利用している入居者様はいない 研修等での参加で権利擁護や後見制度について学ぶ機会はある	○	今後はホーム内での権利擁護制度の勉強会や研修会の時間を設け、今後、必要な方へ制度の活用がすみやかに支援できるような体制作りと制度の理解を深めていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームの介護理念にも虐待防止の項目を取り上げると同時に、全スタッフがそれを理解した上で日々へと介護に取り組んでいる	○	今後は勉強会の機会を設け、虐待防止関連法の理解を深めていけるように全スタッフで研修会(勉強会)の時間を作っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、重要事項等の十分な説明と入居者様とご家族様のご理解・納得して頂いた上で入居契約へと繋げている また、入居者様やご家族様の不安やご意見等は即答できる事に関してはその場でお話し、生活の中で解決できる事はケアプランへと繋げる等、内容に応じた対応を図り、安心して入居し生活して頂けるように支援している	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には苦情担当者を設けていると同時に入居者様の意見、不満等は生活の中で解決できるようにスタッフが話し合い統一したケアを支援している また、意見箱の設置を行っており、入居者様の意見、要望を外部に表わす機会を設けている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「生活の様子」として(健康状態・金銭状況・入浴状況・排泄状況・薬状況)を記載してご家族様へ郵送している また、必要に応じて個別に電話連絡や面会時等にご家族様へ入居者様の報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホーム内には苦情担当者を設けると同時にご家族様からのご意見等を反映させながら対応している また、意見箱を設置する事によりご家族様の不満や意見等を外部に表せる機会を設けている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者へは随時、意見等を個別に話をする機会や時間をもうける事ができているが、運営者へ直接、一人一人のスタッフ全員が個別に意見等の話をする機会が少なく、管理者を通して話をしすると言った流れとなっている	○ 一人一人のスタッフ全員が運営者へ意見を反映させる事は困難であると考えられる為、管理者やユニットリーダーが全スタッフの意見等を取りまとめた上で、運営者へ相談や意見等を反映させていけるように努めていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早番～夜勤体制と4体制での勤務体制で対応している 緊急時や状況に応じて連絡体制を実施し、柔軟な対応を行っていけるように調整している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職等は利用者への精神的な影響があると十分に理解しているが、事業所が大きい為異動等を避ける事は出来ないのが現状である為、利用者の気持ちが不安にならないように精神的ケアに配慮しながらサポートしている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為に研修参加への取り組みは定期的に行っている	○	全スタッフの平等な研修参加に向け検討していく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人内での交流やネットワーク作りは図れているが、他施設との交流を含めた勉強会等への取り組みはなされていない	○	今後はGH協会主催の勉強会や研修への参加を取り入れると同時に、相互訪問等の活動への参加を積極的に取り入れていく
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内では互助会を設けて、定期的に親睦会や忘年会等を実施し、職員の交流を深めると同時にストレス解消へと繋げていけるような職場環境となっている		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の勤務実績、年齢、性別の状況等を理解した上でGHスタッフの配置を行っており、施設長とは個別に話をする機会もあり、仕事への意欲を向上できるように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様との傾聴する体制作りや不安を解消できるようなお声掛け等の個別支援での対応を行い、信頼関係へと繋げていけるように心掛けている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からのご相談や心配事等を入居時点でお伺いすると同時に随時、面会時のお声掛けや電話連絡等で話をする機会も設けながら、ご家族様の安心と信頼関係へと繋げていけるように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて状況判断と必要支援を見極めて、随時、またはモニタリング会議にてスタッフ同士話し合い統一したケアを行えるように支援している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者様に依りて、利用者様同士が馴染みの関係が築けるように、スタッフが個別に間に入りサポートすると同時に、ご希望や相談に応じて外出や外泊等も利用しながら、安心してGH生活に馴染めるように支援している		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリや行事等、入居者様とスタッフが一緒に楽しめる環境が整っている また、話題提供(昔のならわしや季節等)会話を引き出せるような話題作りを行い、入居者様より昔の事を教えて頂いたり、最近のニュース等の話題を提供したりと、皆で楽しくお話できる時間も多く取り入れている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時等に入居者の現状報告や在宅時の状況等ご家族様と接する時間を設け信頼を得るよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族様との関係によって面会や外出泊に違いがあるが、より良い関係が築けるように面会や外出泊等を働き掛け、ご家族様とも交流する時間を作れるように支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前より利用していた美容室等、馴染みの関わりを大切にしながら支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の関係を見守り把握した上で、食堂テーブルの配置や生活リハビリの依頼、外出時の支援等に配慮し、またスタッフが利用者同士の間に入り関わりが良好な関係へと築けるように対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者様や御家族様には、必要に応じて相談等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の生活暦の把握や本人の思いを理解し、個別に支援できるように努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時には生活歴や生活環境、生活の様子等をお伺いし、全スタッフがこれまでの生活暦を把握し理解した上で、入居後の生活へと繋げている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人一人の生活状況を把握し、入居者様一人一人個別に応じた環境で生活できるように支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者を中心に1ヶ月に1回、モニタリング評価会議を実施している 入居者様の担当スタッフを作り、意見の反映や見直し等の話し合いを行った上で介護計画へと繋げている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回の介護計画の評価見直し(モニタリング会議)を実施していると同時に、身体の状態、精神状態の変化に伴い随時、状況に応じた介護計画の変更等につなげている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子(食事・排泄・服薬・入浴等)及び身体変化を個別に記録へと反映させている また、毎日の介護計画の評価も記録し、月のモニタリング評価へと繋げている		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて柔軟に、個別支援を心がけている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月行事にはボランティアを取り入れた取り組みや一緒に食事を食べる時間も作り、交流を図ると同時に楽しめる環境を支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の必要性に応じて、通院支援等のサービスを利用して頂きながら対応している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議を通じて、地域包括センターと定期的な関わり等は持っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様とご本人様のご希望病院、もしくは入居前より受診していた病院(かかりつけ医)を自由に選択して頂いている ホーム側としては定期的に病院通院、定期薬処方を受けられるように、通院の際は1ヶ月のバイタル測定の記録等も病院へ持参して頂いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月一回、協力病院(精神科医師)の定期回診をホームで実施している また、入居者様の状態に応じて個々に認知症の専門医への診察を受けて頂いている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームには看護師がいない為、利用者様に体調不良が診られた時や身体的な、不安がある時は隣接する同法人内の看護師に連絡状況報告し時にはホームに来て診て貰い対応している	○	看護職員の配置を希望していきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と当ホームの連絡体制を図り、状態の把握及び退院後の支援等が万全に対応できるように連携している また、情報交換した資料はスタッフ間で情報を共有し対応している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体変化やホーム生活が困難を生じる場合には、事前にご家族様との話し合いの場を設け、相談していくように対応している	○	看護師がいないため見取りは行っていないが、重度化、終末期でも対応できるよう知識・技術を習得していきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は認知度は様々であるが、身体面では自立した入居者様が多く入居されている現状である為に、重度化や終末期に向けた、医療面や環境面での検討や取り組みが十分とは言えない	○	今後に向けた終末期の取り組みを検討しながら、医療面等チームとしての支援方法を事前に話し合いを行ってきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームから別施設への入所の場合は、当ホームの情報を提供し、住み替えによるダメージを減らすよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様一人一人に合わせたお声掛けと個別支援を行うと同時にスタッフ間の情報の共有以外では個人の情報の厳守とプライバシーを確保しながら対応している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者様の話を傾聴し、一人ひとりに合わせて説明し理解して頂けるようにお話している また、本人の思いや希望を必ずお伺いして自己決定または選択できるように支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースを守り、その人らしさを優先し支援できるようにと心掛けているが、状況や時間帯に応じては、スタッフのペースになることがある	○ その人らしさを大切にした支援をサポートできるようにスタッフ一同が気持ちにゆとりを持ち、一人一人の生活のペースを守れるように日々努力していく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は本人の望む店に行けるように支援している また、入居者様の個性に応じた髪型や身だしなみ、エレガンス等を個別に行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はウィルス感染予防の為、調理のお手伝いは控えて対応しているが、食後の片付け等は入居者様の意欲性に任せながら実施して頂いている また、誕生日には入居者様の食べたい食事(昼食メニュー)を取り入れ、食事が楽しめるよう工夫している	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の希望に合わせた飲み物(ヤクルト)の注文や、好みの飲み物や好きなおやつを、季節感に配慮しながら喜んで頂けるように提供している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄支援の必要な入居者様については、本人の訴えや排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促せるように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一回のペースで入浴して頂いているが、本人の希望により毎日でも入浴して頂ける体制にある 入浴時は必ずお声掛けを行い入浴して頂き、入浴時間の希望も取り入れながら対応している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人毎の生活習慣を尊重し、テレビ観賞や談話の時間を設けながら個人の生活ペースにお任せしながら見守りに努めている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様毎に生活リハビリの役割と楽しみごとを支援しながら、入居者様の意欲性や楽しみへと繋げている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のご希望や御家族様と相談した上で、状況に応じて、財布(お金)を自己管理して頂いている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや散歩、買い物の時間を個別に実施している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	仲の良い利用者同士でドライブやショッピングモールへお出かけ、全入居者様と日帰り温泉、外食する機会を設けて支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご希望により、ご家族様やご兄弟様へスタッフと一緒に電話を掛けて、個別にお話できるように支援している また、手紙のやり取りも支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様や知人親戚等、いつでも気軽に訪問して頂き過ごせる環境が整っている ご本人様の居室以外でも談話室や和室を自由にご利用できるようになっている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束を正しく理解し、身体拘束を行わないケアへと取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームでは、日中に玄関等の出入り場所への施錠は行っていない また、その件を全スタッフが十分に理解し、鍵をかけないケアへと取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは昼夜共に利用者様のプライバシーに配慮しながら、入居者様の居場所の確認、行動様子観察を行い、居室巡回等の見守りに努めながら、入居者様が安全に過ごせるように支援している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせ、危険を予防する取り組みを行っている また、危険物、洗剤、医薬品等は所定の場所へ保管と管理を行い対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃から職員間で話し合い、利用者に応じた事故防止に努め、ヒヤリハット報告や予防対策等の会議も行っている また、緊急時の対応としては、緊急連絡表を作成し、夜間でも連絡できる体制を整えている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署にて普通救命講習に定期的に参加しているが、応急手当等、急変時や事故発生時には全スタッフが万全に対応できるか不安を感じている		普通救命講習だけでなく、今後もその他勉強会等にも参加していく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災避難訓練を実施し、利用者の安全を第一に考え、避難できるように取り組んでいる	○	町内会との連携、地域の方々より協力が得られるよう働きかけていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には個室である事についてのリスクを必ずお話し、ご理解を頂くと同時に、生活の中で危険と感ずる場合には随時、ご家族様への相談と報告を行い対応している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と食事摂取状況、排泄状況を記録へと反映させ情報を共有し、日々の身体の変化や健康状態の把握に努めている また、緊急や必要に応じて看護師への相談やご家族様への連絡や病院受診を支援している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療ファイルを作成し薬一覧表を個人毎に保管している また、入居者様に応じて服薬支援方法を変えながら確実に服用できるように対応している また、薬処方変更や追加処方等がある場合には副作用に十分に注意観察を行い、記録へと反映している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつ時には乳製品とバナナを提供し便秘予防に努めている また、生活リハビリ以外でも体操を毎日、実施し体を動かす時間も確保している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	年に数回、同法人の歯科衛生士の口腔ケア指導を実施している また、入居者に合わせて口腔ケア支援を毎日実施している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のバランスを考え、定期的に同法人の栄養士と相談のもと作成する献立メニューと、入居者様に合わせた食事量、食材を工夫し、食事・水分提供を行っている また、身体状態の変化時にも対応できる食材のストックを確保している		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	生活の中でうがい手洗いの励行と、外部への感染を予防する働きかけを行い、感染予防に努めている また、食事調理方法(加熱)にも注意し、居室内、手すり等の環境面の消毒も毎日行っている		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に新鮮な食材を発注し、冷凍・冷蔵に分けて保管して管理している また、調理器具の消毒を毎日実施して衛生管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム庭には畑もありプランターには草花を植えて緑の多い環境を整え、綺麗な景色を入居者様に観賞して頂けるように季節毎に環境整備に努めている		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けや和風を基調とした環境を整えて、心地良く過ごせるような空間作りに努めている		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは自由に過ごせる居場所が入居者様毎に確保されている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様毎に使い慣れた物や馴染みの家具等を入居時に持参して頂き、本人が心地良く過ごせるように工夫している 御家族様の宿泊も可能である		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気に努め、入居者様毎に衣類の調整と冬場は各居室内に加湿器を設置し、温度湿度管理を行っている また、毎日の温度湿度を記録へと反映している		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等の手すり設置や居室、トイレ入口の広さも確保され、安全性にも配慮した建物と安全面での環境が整っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防げるように、入居者様に応じてトイレ場所の提示や各居室前に表札を設置し、場所の理解が出来るようにサポートしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節毎に外ウッドデッキを利用してお花見や芋煮会等を行い、外環境を活用した行事計画を取り入れている また、畑作りや花植えを楽しめる環境も整っている		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月モニタリング評価会議や毎日の評価記録を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを頻繁に行い、生活援助計画へと繋げている
- ・当ホームでは内部は床暖房設備や居室、トイレの十分な広さが確保されており、外部は庭が広く、畑もあり緑が多い等住みやすい住環境は整っている
- ・当ホームで自由に使用できるホーム専用車が確保されている
- ・同法人が近隣にあるため、いつでも協力体制がとれるような状態にある
- ・仙南（亶理町）は温暖な気候と水・空気・食べ物がとても美味しく大変住みやすい町に当ホームがある